

## 豊かな表現力の育成 ～伝え合う力を高める指導の研究～

### I 研究テーマについて

伝え合う力を高める指導の研究について、ここ数年取り組んできている。昨年度の研究の成果と課題を受けて、今年度も話すことと聞くことを相互に密接に関連させた指導の工夫を取り上げた。また、子ども達の考えを深め表現力をはぐくむための音声言語と文字言語が有機的に関わるような学習形態・指導法・教材の開発にも取り組んでいきたいと考え、このテーマを設定した。

### II 研究の内容

#### 1 「伝え合う力を高める指導法」についての学習会

講師 東雲小学校 雨宮 弘志 教頭先生

##### ①「発問」について

授業作りのための発問の種類と内容、方法など

教師の言葉がけが子どもの意欲を引き出し、学級や学習集団作りの基本となる。

##### ②「話すこと・聞くこと」にかかわる5つの言語活動について

「スピーチ」・「対話・問答」・「発表・紹介」・「話し合い・討論」の活動の違い。

学年の発達段階に応じて5つの言語活動を仕組んでいく。

##### ③詩の授業について

詩の授業の学習内容

「題名」「リズム」「中心語」「語り手（視点）」「技法と効果」

詩の教材研究の方法について、具体例としていくつかの詩を紹介していただいた。

- ・普段当たり前のように行っている教師の発する言葉について改めて確認・考える機会となった。
- ・詩の指導の例を子どもになったつもりで考えながら、体験することができた。

#### 2 授業研究

(1) 単元名「詩を楽しもう」 教材 「わたしと小鳥とすずと」「みいつけた」

井尻小学校 3年生担任 佐藤 多恵 教諭

単元の目標

読むこと：二つの詩をくらべながら読み、詩の組み立てや内容がよく分かるように言

葉の抑揚や強弱、間の取り方などを注意して音読することができる。

- ①単元を貫く言語活動…音読発表会を行うことで、音読することに意欲を持たせることができた。より上手な音読を目指すことに取り組む目的意識を高めることができた。
- ②形態の工夫…どの児童も主体的に参加できるように少人数グループによる交流を行った。
- ③ワークシートと付箋の活用…付箋に友だちの音読に対して児童による相互評価を書きワークシートに貼りながら自分の考えを伝えあった。

### 3 実践交流

- ・「伝え合う力を高める指導の工夫」について、一実践を持ち寄り、授業の様子を交流した。
- ・各自が授業を持ち寄り、質疑応答の時間をとることで互いの問題意識を共有することができた。

### 4 小中授業交流

「走れメロス」 塩山中学校 数野 透 教諭

- ・指導案検討及び授業研究会を小中合同で行うことにより、国語科における小中連携について課題意識が高まった。
- ・中学校で具体的にどのような指導がなされ、子ども達がどのような力を付けているかを授業参観を通して知ることができた。

## Ⅲ 成果と課題

- 学習会で学んだことを、授業研究や日常の授業で生かすことができた。
- 付箋やワークシートを工夫し活用するといった音声言語を文字言語化し記録していく活動を取り入れるとことは、評価に有効な方法と確認された。
- 詩の授業で評価のポイントが明らかになった。
- 伝え合う授業を組み立てるために、授業形態やワークシートの工夫が有効な手立てとなることが確認された。
- 来年度にむけては、「伝え合う力」とはどんな力か、目指す力を具体的に部会内で確認し合い、授業実践に取り組めるようにする。
- また、子ども達の伝え合う力をはぐくむために、音声言語と文字言語が有機的に関わるような学習形態・指導方法・教材開発の研究を継続していきたい。

(部長 渡邊 満智子)